



▲十和田市現代美術館企画展「flowers」ではスタッフが南部裂織で作られた花のコサージュを着用しています

未来永劫愛される
圏域をつくらう



『南部裂織 フラワーコサージュ』

「Sakiori 3G Project」による監修のもと、「南部裂織保存会」が制作しました。愛らしい花のコサージュで地域に残る手技の美しさを伝えています。

南部裂織のように：
地域の特色を生かし
新たなひとつの圏域を紡ぐ



▲現在の十和田消防本部通信指令室。119番通報を受けると、住所を口頭で聞き取り位置を検索。「統合型位置情報通知装置」を導入した共同指令センターを整備すると、通報者の位置情報を瞬時に確認することができ、出動時間の短縮につながります

連携メリットを生かす
圏域内全体の住民サービスが向上

共生ビジョンの事業のひとつ、「消防指令業務共同運用等事業」を紹介します。これは、※上十三地域4消防本部が共同で高機能な消防指令システムを整備し、共同指令センターを運用するものです。共同指令センターは、4消防本部を管轄し、十和田消防庁舎内に設置を予定。119番の通報者の位置が瞬時に地図に表示される「統合型位置情報通知装置」を導入するものです。その位置情報をもとに、各消防署に出動指令が即座に行われ、以前より出動時間が短縮されます。共同で整備することで、ひとつの消防本部で整備するよりも大幅にコストが削減されます。今年4月に上十三地域4消防本部消防通信指令事務協議会（会長・沼田隆志十和田地域広域事務組合消防本部消防長）が設置され、平成28年度からの運用開始に向けて準備を進めています。市町村間で連携して高機能なシステムを導入することで、住民サービスの向上を図ります。

※「上十三地域4消防本部」…十和田地域広域事務組合（十和田市、六戸町）、三沢市、北部上北広域事務組合（野辺地町、横浜町、六ヶ所村）、中部上北広域事務組合（東北町、七戸町）の4消防本部。共同運用は県内初の事例。実現すると、2市5町1村の人口約183,000人、面積約2,054km²を管轄することになります。

共同運用により消防力の強化につなげたい

これまで、通信指令業務は各消防本部が単独で整備し、運用していましたが、複数の消防本部で整備することで、地域の消防力向上や費用面の節減効果など多くの有効性があります。また、共同で運用することにより、大規模災害時などにおける迅速な広域応援体制の充実強化にもつながります。

災害出動では、1分1秒の遅れが命取りになる場合があります。共同指令センターの整備により、119番通報から出動までの時間短縮を図り、被害の軽減や救命率の向上に努め、上十三地域4消防本部の消防力の強化につなげたいと思っています。



古舘 正樹 Furudate Masaki
十和田地域広域事務組合消防本部
通信指令課長 消防司令長

圏域の目指す将来像
南部裂織のように

上十三・十和田湖広域定住自立圏は、10市町村で構成される広大な圏域です。伝統工芸・南部裂織のようにお互いに多様な特色を認め合い、尊重しながらひとつのカタチに紡いでいく、そんな将来像を目指します。

4月から十和田市現代美術館で行われている企画展「Flowers（フラワーズ）」では南部裂織で作られた花のコサージュが生まれました。デザイン性を取り入れ、形を変えてなお現代に受け継がれていく伝統工芸・南部裂織。わたしたちが住むこの圏域も次世代に受け継がれていきます。人々の生活が変化している中、10年、20年先を見据えた取り組みが求められています。

「できることから着実に」わたしたちにも、できることがあるのではないのでしょうか。上十三・十和田湖広域定住自立圏は、目指すべき未来に向かって、スタートを切りました。

●特集
上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン策定
定住圏スタート
おわり